

令和5年度 江戸川区立松本小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○やさしい子 ◎考える子 ○やりぬく子 ○健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>50周年記念事業を通して、学校、保護者、地域が一体となることができた。様々な取組を通して、子どもたちが落ち着いて生活できる環境を整えることができた。 <課題>児童の学習の基礎・基本の定着や主体的・対話的で深い学びとなる授業スタイルの確立など、家庭との連携も含めた学力の向上において課題となることが多かった。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上プロジェクト(朝学習、ランチスタディ等)レベル別個別指導の確立 ・東京ベシツドリルを活用した既習事項の習得 ・「知能アセスメント」を活用した予習・復習の取組 ・「江戸川っ子 study week」による家庭学習の推進	・毎学期実施する診断テストによるCD層の減少 ・学習に関するアンケート項目の自己評価において、肯定的に回答する児童の割合80%以上 ・学習に関するアンケート項目「すでに学習に取り組む」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上	A	A	○学力向上プロジェクトと連携して授業研究を実施した。60人以上の参加中、算数のスタンダード授業について深くふまることができた。 ○教職員が日常的に授業改善に向けて話し合いが盛んになった。 ○学力向上委員会が考えた課題に定期的に取組んでいる。 ○勉強の楽しさや学びの楽しさを伝える機会を設けていく必要がある。 ●「家で学習する」児童は、家で学習する児童の割合74%であった。	A	・子どもたちのやる気を引き出すことができたのは、先生方の努力だと思うので、継続してほしい。 ・校長先生の姿勢がみんなに伝わっているのではないかなと思う。 ・国語が次の課題とのことで、暗唱の取組のように変える取組を期待している。	・5年生中心に取り組んだ学力向上プロジェクトは良い結果を出すことができた。全ての学年で、朝学習と取り組めるようにしていくことで、更に学力向上を図っていく。 ・「江戸川」区の国語の学力向上プロジェクトに合わせた取組を考え、実施していく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・日常的に調べる姿勢の定着 ・区立図書館との連携 ・学校応援団による「心のはな活動」の連携と充実	・「調べる学習コンクール」「読書コンクール」の作品作成 ・「読書ノート」を活用した単級の学習の推進 ・研修会の実施(教員向け及び保護者、ボランティア向け)	・「調べる学習コンクール」「読書コンクール」に応募する児童の割合80%以上 ・全クラスにおいて「読書ノート」を使用した授業の実施 ・学習に関するアンケート項目「本を読むのが好き」「調べるのが好き」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上	A	B	○「調べる学習コンクール」に応募する児童の割合80%以上であった。 ○学力向上委員会が考えた課題に定期的に取組んでいる。 ●「本を読むのは、好きですか」で肯定的回答73%であった。	A	・夏休みの調べる学習が定着したのとは良いことである。日常へにもさらに生かせるようにしていきたい。 ・家庭での読書の啓蒙をさらに行っていくほしい。学校応援団のボランティアを生かしていくことも一つであると思われる。	・調べる学習の日常化をさらに推進していきよう、新たな取組を考えていく。 ・家庭との連携を図れるよう、読書週間等のあり方を見直していく。
	(指導力向上) ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業スタイルの確立	・「松小授業スタンダード」を活用した日常的な授業研究の実施 ・校内研究授業において、全学年授業研究実施	・月に1回以上授業チェック表を活用した振り返りを全教員が実施 ・年7回の校内研究実施	A	B	○研究授業を通して、あてて児童の言葉から作っていくことや見通しをたてる工夫など、導入についての理解を深めることができた。 ●研究授業で学んだことが、北土十分に日常に生かされていない。今後	B	・授業は子どもたちにとって、楽しいものであつてほしい。そのための研究を続けていきたい。	・今年度、日常的な授業研究の足場が少しできた。それをさらに高めて、全員の授業力を高めていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体力向上を図る日常的な取組の充実	・運動量が確保された体育の授業の実施 ・読書を通じた探究的な学習の実施 ・体力テストの結果による個々の体力目標の設定	・学習に関するアンケート項目「体育や外遊びが好き」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上 ・のびのびタイム3回以上実施 ・ランニング月間やなわとび月間を行い、児童の運動への関心を高め、体力向上につなげる。	A	B	○「体育や外遊びは、好きですか」で肯定的回答が90%であった。 ○ランニング月間に形態を変え、取組日数を増やすことで体力向上につなげている。 ●様々な取組を体力テストの結果に反映させることができるように継続していく。	A	・体育が大好きな児童も、体力不足と関係があるのではないかな？日常的に運動する機会を設けていく必要があると思う。 ・ランニングや縄跳びを自分の目標をもって取り組むことはとても良いと思う。今後も継続してほしい。	・来年度は、江戸川区の取組として、縄跳びを年間で行うことになる。今まで行ってきたことを更に高められたいよう考えていきたい。 ・児童の体力不足に合わせた運動に取り組めるよう、体力テストを生かしていく。
	(家庭と連携した体力向上の推進) ・家庭における日常的な取組の充実	・親子で取り組むことができる体力アップ事例の紹介	・保護者へのアンケート「体育や外遊びなど、体を動かすことは好きですか」において、肯定的に回答する保護者の割合80%	A	B	○体力テストの結果と家庭での取組事例を配って体力増進を促した。 ○「体育や外遊びなど、体を動かすことは好きですか」で肯定的回答が83%であった。	B	・家庭で体を動かすことがやはり必要であり、連携をとってやってほしい。	・今年度家庭と連携をとるために行った、体力テストの活用をさらに良いものにしていく。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンレージングの活用促進 ・副読本、交流及び共同学習の実施・充実	・生活指導夕会において情報交換による児童理解の促進 ・SC、心理士、SSW等との連携の実施 ・特別支援校内委員会の充実	・毎週金曜日の実施 ・毎学期1回の実施 ・SC、心理士、SSW等との連携の実施 ・支援を要する児童への個別支援ができたと報告する教職員の割合90%以上	A	B	○SCと連携をとることで、保護者の理解を促進させることができた。 ○その後の指導に繋がった。 ●支援を要する児童に対して、学校全体で寄り添って生活できるようにしていきたい。 ●支援を要する児童への対応に対して、個別の児童や保護者への理解を深めることができた。	A	・学校全体で連携が取れていることを感じることができた。それが子どもたちに良い影響となっている。 ・様々なことに対する理解教育は、今後も継続してしていく必要がある。	・様々な連携については、継続していくと共に、さらに必要であると思われる場合は広げていく。 ・一部の学年で実施した理解教育を、全ての学年でできるようにしていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	(障害理解教育の推進) ・障害理解を深める取組の実施	・バリアビアンとの交流、障害理解を深める授業等の実施 ・ポッチャによるバラスポーツの理解と交流	・4年生によるバリアビアンとの交流、障害理解授業の実施 ・3年生、4年生においてポッチャを体験する児童が80%以上	A	B	○3年生と4年生で外部講師を招いて、シニアリングパレー体験、4年生への手話教室を行うことで、理解を深めることができた。 ●ポッチャ体験を日常化できなかった。	B	・実際に体験することは、何よりも心に残るのではないかなと考える。継続することで、さらに定着していくのではないかな。	・来年度も計画的に、より多くの学年で体験を通して理解教育を継続していく。
	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・学校生活の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上	・SC他関係機関と連携した行内体制の確立 ・年3回以上のいじめ防止に関する授業の実施 ・年2回のhyper-QUの実施と研修を通じた活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決 ・(人権尊重の精神の育成) ・学校生活の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上	・SC他関係機関と連携した行内体制の確立 ・年3回以上のいじめ防止に関する授業の実施 ・年2回のhyper-QUの実施と研修を通じた活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決 ・(人権尊重の精神の育成) ・学校生活の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上	A	B	○「いじめは絶対にしてはいけない」で肯定的な回答100%であった。 ○hyper-QUの2回目、3回目の結果はまだである。 ○定期的に行っている研修も継続して実施したい。 ●保護者のアンケートでは、いじめへの取組に対して肯定的でない意見が6%であった。	A	・いじめについては、絶対にダメという姿勢を全ての大人が示し続けていることが大切である。その姿勢が子どもに伝わっていると思う。 ・児童のことをより詳しく知るための取組は良いと思う。	・いじめについては、今後も全教職員が同じ姿勢で取り組めるよう共通理解を図る。いじめを無くするため、毎年対応するのために、報道図を徹底していく。 ・hyper-QUをさらに活用できるよう、実施時期や結果の活用方法を考えていく。
	(児童生活の向上) ・学校生活の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上	・「松小スタンダード」人として●の徹底 ・学期1回の「松っ子週間」による基本的な生活習慣の充実 ・SNS家庭ルール」の作成と学期1回の確認週間の実施	・学校生活に関するアンケート項目「学校が楽しい」で、肯定的に回答する児童の割合が90%以上 ・学校生活に関するアンケート項目の挨拶に関して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・学校生活に関するアンケート項目「SNS家庭ルールを守っている」で、肯定的に回答する児童の割合が70%以上	A	B	○「学校が楽しい」で肯定的回答が90%であった。 ○「すでに身につけている」で肯定的回答が91%であった。 ●SNSに関するトラブルが多く、対策を実施したが家庭との連携を含め、未然対策が働かなかった。	B	・松本小学校がずっと大事にしてきた「人として」を常に意識させることは、良いことだと思う。提示するだけでは、あまり変わっていないので、さらに工夫をしていきたい。 ・SNSについては、今後もしっかりと注意喚起を思う。	・人としての児童意識調査を始めて行った。継続して行ってほしい。児童の姿を見るときにも、今後の取組を考えていく。 ・SNSについては、ルールを徹底を図るとともに、継続して家庭と連携してできているかを確認していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページの週1回以上の更新 ・年4回の学校公開の実施	・学校生活に関するアンケート項目「学校が楽しい」で、肯定的に回答する児童の割合が90%以上 ・学校生活に関するアンケート項目の挨拶に関して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・学校生活に関するアンケート項目「SNS家庭ルールを守っている」で、肯定的に回答する児童の割合が70%以上	A	A	○「学校が楽しい」で肯定的回答が90%であった。 ○「すでに身につけている」で肯定的回答が91%であった。 ●SNSに関するトラブルが多く、対策を実施したが家庭との連携を含め、未然対策が働かなかった。	B	・ホームページは今後もどんどん活用して、学校のことを知らせてほしい。	・ホームページは保護者の声も聞いて、よりよいものにしていく。 ・学校公開は、今年度同様の実施していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 ・学校評議員による定期的な授業参観の促進	・年3回の学校関係者評価の開催 ・江戸川区教育施策に基づいた重点項目の設定 ・学校評議員による定期的な授業参観の促進	・事前に学校関係者評価の内容を学校評議員に提示し、課題や取組を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	A	B	○学校評議員に事前提示をして、関係者評価の取組内容を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	A	・評議委員会だけでなく、日常的に学校のことを聞くことができた。	・今後もより学校評議員の方との連携を深め、よりよい学校づくりに取り組んでいく。
	(地域の一員としての自覚の育成) ・愛校心を醸成する教育活動 ・積極的な地域学習の実施 ・防災教育の実施	・「実のなる木」活動の充実 ・近隣の小・中学校、福祉施設、病院と連携した教育活動の実施 ・PTAと連携した災害対策教育の実施	・学校生活に関するアンケート項目の地域に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・学校生活に関するアンケート項目の災害に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上	B	B	○「地域の防災や行事があったら、参加する」で肯定的回答が80%であった。 ●災害発生時などに、どのように対応するか、おそれるという点はあっているが、防災意識を高める必要がある。 ●近隣の施設と連携した教育活動が実施できていない。	B	・PTAや地域との防災訓練ができたのは、とても良かった。実際に災害が起こった時に、協力できる体制を整えていくことが何より大事であると思う。	・実のなる木での学習をより子どもたちが自主的に活動できるようにしていく。 ・防災訓練をより地域と密着したものにしていく。
特色ある教育の展開	(心の教育) ・自然を含めた全ての生き物の命を大切にする心の育成	・なかよし班を中心とした全児童によるヤギの飼育 ・各学年の発達段階に応じた「実のなる木」「ヤギと触れ合う」活動の実施	・学校生活に関するアンケート項目「生き物の命を大切にする」で、肯定的に回答する児童の割合が90%以上 ・学校生活に関するアンケート項目「生き物の命を大切にする」で、肯定的に回答する児童の割合が90%以上	A	A	●「生き物の命を大切にする」で肯定的回答が89%であった。 ○「動物の命は大切である」という意識が、肯定的に回答する児童の割合が90%以上であった。	A	・うさぎがなくなってしまうのは残念だが、その時の子どもたちの様子を通して、命の学習は効果が出ているのではないかな。	・今年度で実施してきたヤギとの触れ合い活動をより良いものにしていく。
	(学校統合に向けた取組) ・2年後の統合に向けた取組の実施	・鹿骨小学校との合同遊びの実施 ・閉校式実行委員会による準備 ・統合に向けた環境の整備	・各学年1回以上の合同遊びの実施 ・2校の教職員における統合会議の実施(8月以降2回程度)	B	B	○3学期に委員会を立ち上げる。 ●合同遊びは、今後計画して実施する。	B	・低学年で実施することができた交流をさらに深めていきたい。	・今年度の反省を生かして、さらに良い交流を計画、実行していく。
	(働き方改革) ・教員の勤務環境の改善 ・PTAの仕事内容の削減	・マイ定時退勤日の設定 ・勤務時間の短縮 ・行事への手紙の軽減、広報誌、手紙の電子化	・週に2回以上定時退勤を実施した教職員70% ・1月の残業時間が80時間を超える教職員が0人 ・保護者へのアンケートにおいてPTAの仕事内容の削減に対して、肯定的に回答する保護者が70%以上	A	B	○PTAの仕事内容を削減に対しては、PTA役員に話合いではあるが肯定的意見が出ている。 ●定時退勤日を実施した教職員が70パーセント以上。残業時間が80時間を超える教職員は、2学期は多い突きで来た。	B	・PTAについては、鹿骨小と連携して新たなものを生み出してほしい。 ・教員の働き方改革も大切だが、魅力とどうにか伝えたい。	・統合に向けて新たなPTAを築いていけるよう話し合いを進める。 ・教員の働き方改革も大切だが、魅力とどうにか伝えたい。